

城東・上野ヶ丘・碩田認知症ネットワーク(JUN)活動について

大分県認知症介護指導者

工藤美奈子

キーワード: 多職種連携・学び合う・対等な関係性
地域包括圏域ネットワーク

活動の概要(活動の主体:個人)

【活動目的】

認知症になっても住み慣れた地域での生活を継続するため、医療・介護や生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援を行うため、JUN(城東・上野ヶ丘・碩田認知症ネットワーク)会を設立する。(会則より)

【活動内容】

年3回の研修会の開催及び年3回の事例検討会の開催

活動のきっかけ、背景(指導者として・介護支援専門員としての立場で)

認知症の理解が低かった 2007 年頃、「センター方式」の研修の場で知り合った介護支援専門員とともにケア現場の問題を話し合う場を作った。そして 2008 年 2 月に「認知症自主勉強会」という型で研修会が開始された。

この活動は弊社を事務局として開催していたが、2011 年に大分県単位の大分認知症カンファレンスが設立。弊社事業所がある圏域と大分市認知症地域支援推進員(以下「推進員」と所属している地域包括支援センターへ多職種ネットワークの必要性を提案し、JUN 会へと発展していった。

活動の経過と成果

【活動の経過】

2007 年頃に大分認知症自主勉強会開催。2011 年大分県認知症カンファレンスの設立。そこからよりパブリックな形で学びの場を開催する目的で大分市認知症地域支援推進員と協働し認知症介護指導者として城東・上野ヶ丘野・碩田地域認知症ネットワーク(JUN)を設立する。大分市内の3つの地域包括支援センター圏域の事業所の有志と認知症サポート医をオブザーバーに設立し運営を行うこととなった。

活動での工夫として①対等な関係性②互いから学びあうこと③多様性を受け入れるなどを念頭に、地域の参加者の声を取りながら企画を準備するとともに、一部の方に過度な負担が生じないようにしている。

活動内容は、ロールプレイによる事例検討会が中心であり、題材としては物とられ妄想、内服管理、BPSD の改善など専門職向けのものから「どうする？わが町！認知症の人も安心して暮らせる街づくり」と題して、地域住民と一緒にミーティングを開催するなど、幅広い内容となっている。

【活動の成果】

- ①大分市内の7団体の認知症ネットワーク間の連携が進み、今年度はオンラインによる認知症支援だけでなく引きこもりなど含めた支援困事例の相談会の開催の企画が進んでいる。
- ②アンケートで研修会内容は評価を得ている。毎回3~40名多い時で100名近い参加者あり。
- ③事例検討会は参加者15名前後であるがコアなメンバーが頻回に参加して研鑽を積んでいる。

今後の展望

1)JUN ネットワーク主催で大分市内の個々のネットワーク活動している専門職団体とディスカッションをする場を2年前から開催している。今年度は認知症のみならずひきこもりなど精神疾患等のケース相談の場もオンライン等を活用しつくりたいと合意があった。(大分市担当者・大分県担当者も参加している)

2)認知症施策の提言も「大分認知症カンファレンス」との連携で大分市内の認知症支援のネットワークも協働して取り組む方向性で準備している。

今後の課題として、事務局が脆弱であり活動の継続性に安定性が揺らぐこともある。どのボランティアネット活動にいえることだが、当日参加をボランティアで活動しても研修等の開催までの事務局作業の負担が高いためどこまで継続できるか？は見えない面がある。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。